

飯山営林署における特用林産物の供給と地域振興

飯山・経営課収獲係 柴 川 一

はじめに

林業は、木材生産や自然保護の面のみならず、その地域の人々の生活の中に、深くかかわりあって、地域振興に貢献している。

最近の林業に関する刊行物でも、毎回のように林業振興のことが、数多く取りあげられていることをみても、今そこに、大きな関心の寄せられていることがわかる。

当署においても、業務方針に、地域振興への寄与をとりあげて、積極的に取り組んでいるところであるが、特用林産物の供給からみた地域の実態と、これに対する当署の取り組みについて発表する。

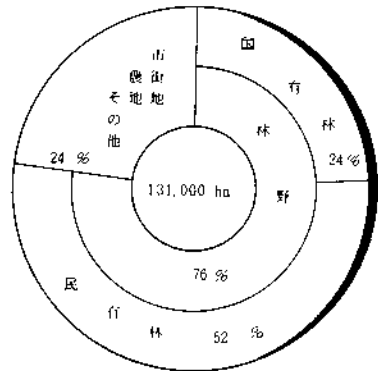
I 地域の特色

1 位置及面積

長野県の北部と新潟県の一部、二市二町五か村からなり、面積は、13千haである。

- ・林野面積は、99千haで76%である。
- ・国有林面積は、32千haで24%である。

図・1 飯山営林署管内面積比(55)



2 産業別就労人口

- ・第一次産業は、43%で他の地域に比して高く、豪雪地帯なるがゆえに、第二次産業の発展が阻害されている。
- ・第三次産業は、スキー場との関連で、冬期観光型である。

このことから農林業主体の冬期観光依存型といえる。

こうした地域の特色から、みやげ物としての伝統工芸品や、山菜等の需要も多く、特用林産物への期待は大きい。

表-1 産業別就労人口比率

産業別	飯山	長野	上田	岩村	田代	伊勢	新井	飯田	木曾	山
第一次産業	43	21	22	31	25	31	25	31	31	
第二次 "	22	31	39	31	34	31	34	31	38	
第三次 "	35	48	39	38	41	38	41	31	31	
就労人口	73,486	247,027	92,980	80,136	28,121	80,136	28,121	80,136	101,965	

II 特用林産物の生産量について

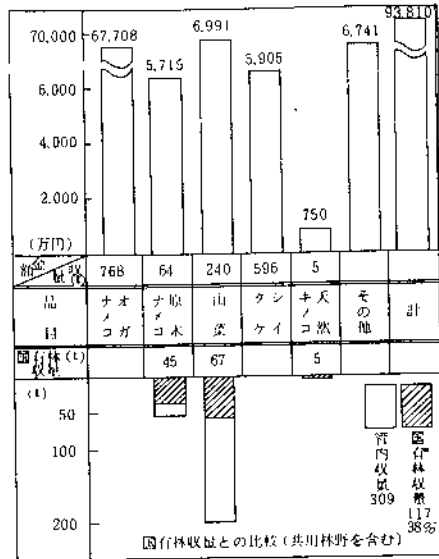
- ・55年度管内の特用林産物生産高は、地方事務所の統計によれば、93,810万円、である。(図-2)

・1 参照)

・共用林野からは、51～55年までの年平均が876万円(図2・2参照)

・国有林の特用林産物販売額は、51～56年の年平均で365万円である。(図2・3参照)

図2・1 管内特用林産物生産高(55調)



国有林から、直接原木供給のないオガナメコ、シイタケ等を除いて、管内特用林産物生産量に対する、国有林からの供給量は、原木ナメコ、山菜キノコで、309t中117t、38%である。

(図2・1参照)

Ⅲ 特用林産物の現状と取り組み

1 山菜加工について

雪とブナで知られる当地方は、山菜やキノコの宝庫でもあり、森林組合、農協等が中心となって、山菜加工施設をつくり、地域の労力と、特用林産物を生かして、地場産業の一翼を担っている。

- ・需要は活発で、関東・関西及び地元が市場である。
- ・原料供給は地元集荷と中国からの輸入である。(輸入量、ワラビ等100t)
- ・課題は原料の自給であり、地域の特色を生かした生産販売が安定した地場産業にするカギである。

図2・2 共用林野から採取された産物年平均(51～55)

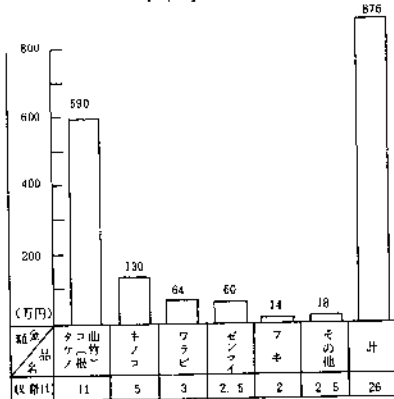
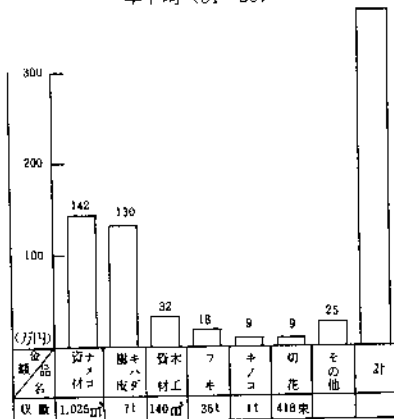


図2・3 特用林産物等の販売額(国有林)年平均(51～56)



以上のことから、農業との複合作物としての研究も進められているが、共用林野の積極的な活用、国有林からの販売供給等が望まれている。(表2参照)

2 薬木薬草について

生薬指向の高まりから、積極的な取り組みが望まれている。

国有林からの供給は、キハダ樹皮、クロモジ、コブシの花芽等であり、収穫予定の林分等を対象に、先行販売を実行している。(表2参照)

3 ナメコ生産について

当地方の特産品としてのナメコは、先に述べたオガナメコと、ブナ等の原木を利用した原木ナメコである。

当署が供給する原木は、表2に示すとおりであり、年平均、約1,000㎡である。これから生産されるナメコは、図2・1に示すとおり、年間45tで、当地方の原木ナメコ生産量の70%にあたる。

表2 特用林産物供給量の年度別推移(国有林)

品名	51	52	53	54	55	56
ナメコ原料	749	886	1,303	1,120	1,133	1,136
木工用原料	77	126	117	169	175	177
山菜	15	21	30	31	33	31
天然キノコ	3	5	6	5	5	
キハダ樹皮		65	7,056	4,704		16,716
クロモジ束	911	446	530		46	90
コブシ束			23	7		26
根曲竹束	720	583	239	227	135	162
切花束	81	100		200	665	1,046

注) 二段書上段 共用林野より供給の分

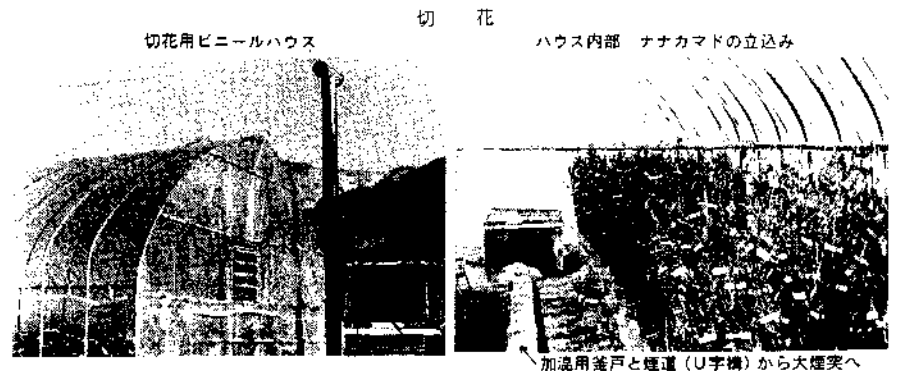
4 切花について

生花の材料として、ナナカマド、オオカメノキ、マンサク等の灌木を利用するものであり、近年、需要が高まりつつある(表2参照)

・生産方法の説明

秋、落葉後に刈り取り、野積のまゝ雪の中に置き、出荷時期にあわせて温室に入れ、芽吹かせて市場に出す、というもので、当地方の多雪と雪が、刈り取り後の枝条の管理に適することから、当地方の新しい特産品としての期待が大きい。

雪に対する受身の姿勢から、雪を積極的に利用しようという運動が展開されようとしているとき、農閑期を利用した複合経営



加温用釜戸と煙道(U字溝)から大煙突へ

として、注目すべきものである。

保育中の林分、収穫予定の林分等を対象に、積極的に需要に応えるとともに、販売手続き等にも配慮して、行政サービスにも努めている。

5 その他

伝統木工芸用の資材、天然生樹苗等の供給についても、地域の要望に積極的に応えてくる。

IV 今後考えられる特用林産物について

国有林野事業を推進する中で、地域の国有林に対する要望と、これの対応について、特用林産物をおして考察してみると、表3に示すとおりである。

- ・ナメコ資材については、資源の有効活用と林地保全を考慮しながら、伐根の利用について検討を加える。
- ・タケノコについては、図2・2に示すように共用林野における供給をみても、今後における大きな期待が持てよう。
- ・切花については、今後の研究に期待するところが大きく、資材供給においても、署間の連携をはかる等、開拓の余地がある。

VI まとめ

以上当署における特用林産物供給の実態と、これが果たしている地域振興についてその特筆すべきものについて述べたが、特用林産物の供給からみた「地域と国有林」について、まとめてみると、表4に示すように

1 地域への寄与

- 必要のほりおしをすることにより、これを農業との複合経営として取り入れ、農家収入の増がはかれる。

- 現状よりもさらに供給を拡大することにより、地場産業の定着化をはかり、地域に就労の場を与える。

これらのことにより、農山村経済の発展に寄与する。

2 国有林野事業への寄与

- 資源の有効活用がはかれる。
- 収入の増がはかれ、健全財政への一助となる。
- 地域の協力が得られる。

さらにこのことが、国有林野事業の改善に寄与する。

特用林産物の供給が、地域と国有林を結ぶ一つの懸け橋となり、国有林への理解を高めて、一体感のじょう成と相まって、地域振興に大きく貢献することになろう。

表-3 今後考えられる特用林産物(国有林)

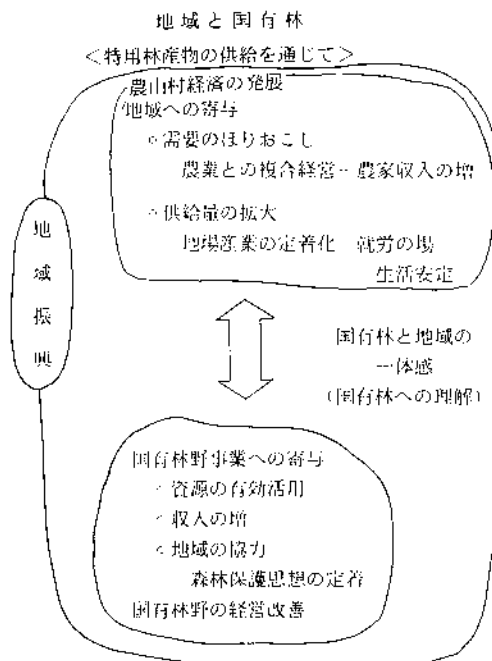
品名	供給の見とおし	今後の課題
ナメコ資材	横ばい	伐根利用の検討
山菜キノコ	横ばいからやや増	栽培技術の開発
タケノコ(根曲竹)	開拓の余地大	販売方法等の検討
薬木薬草	供給能力の拡大	林内栽培技術の開発
切花	開拓の余地大	適する樹種の検討 署間の連携
細工用竹(根曲竹)	供給余力大	需要の拡大

おわりに

国有林野事業の改善が、各方面から、大きな期待と、注目をあつめている。一著のそれは小さなものであっても、各署が、それぞれの地域性を生かし、署間の連携をはかることから、大きな成果が得られるであろう。

森林資源の枯渇が憂慮されているおり立派な森林を育てることとあわせ、限りある資源を、長期にわたり、安定供給を図るとともに、地域のニーズに積極的に応えてまいりたい。

表-4 まとめ



日常における安全活動

- 上田・大庭担当区事務所 篠原 秀夫
西牧 公一
坂口 列弘
関口 三治郎
三井 昇
小林 一雄
柳澤 今朝喜
堀内 章男

はじめに

当担当区では、昭和47年から13万8千時間の無災害記録を続けて来たが、昨年6月1件の公務災害